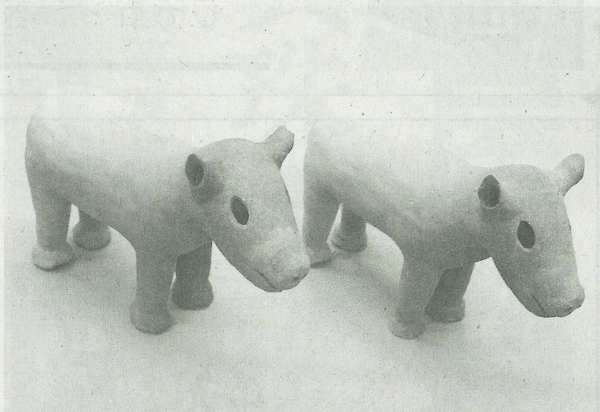


大阪電通大、四條畷市に寄贈



本物の子馬形埴輪（右）とそっくりのレプリカ

3Dプリンターで子馬形埴輪のレプリカ

四條畷市の文化財に指定されている子馬形埴輪の等身大レプリカを大阪電気通信大学（寝屋川市）の学生が3Dプリンターを使って制作し、四條畷市に寄贈した。

の飼育が行われた場所とさ
れており、市内の遺跡から
は馬の飼育にかかわる資料
が多く見つかっている。中
でも忍ヶ丘駅前遺跡から出
土した子馬形埴輪は全国的
に珍しく、国内外から注目
を集めており、各地の博物
館から貸し出し依頼が殺
到。昨年、市立歴史民俗資

料館で展示されたのは1
2カ月程度だった。
こうした状況を受け、市
と包括連携協定を結んでい
る大阪電気通信大が授業の
一環としてレプリカを作成
することに。総合情報学部
の学生たちが埴輪の3Dデ
ータを撮影し、3Dプリン
ターを使って約33時間かけ

て完成させた。合成樹脂製
で重さは本物より軽い約1
140g。着色などは同館
の学芸員が担当し、本物そ
っくりに仕上げた。
四條畷市教委の担当者は
「レプリカは持ち運びがし
やすく触ることもできる。
地元を歴史を学ぶ資料とし
て活用したい」と話した。

の学習などで活用する。

同市は古墳時代中期に馬

館から貸し出し依頼が殺

ターを使って約33時間かけ

て活用したい」と話した。